

新 宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道

あやんつ

平良北コース
ひららきたけ

宮古島市 neo 歴史文化ロード 綾道 平良北コース

宮古島市教育委員会



綾道

あやんつ

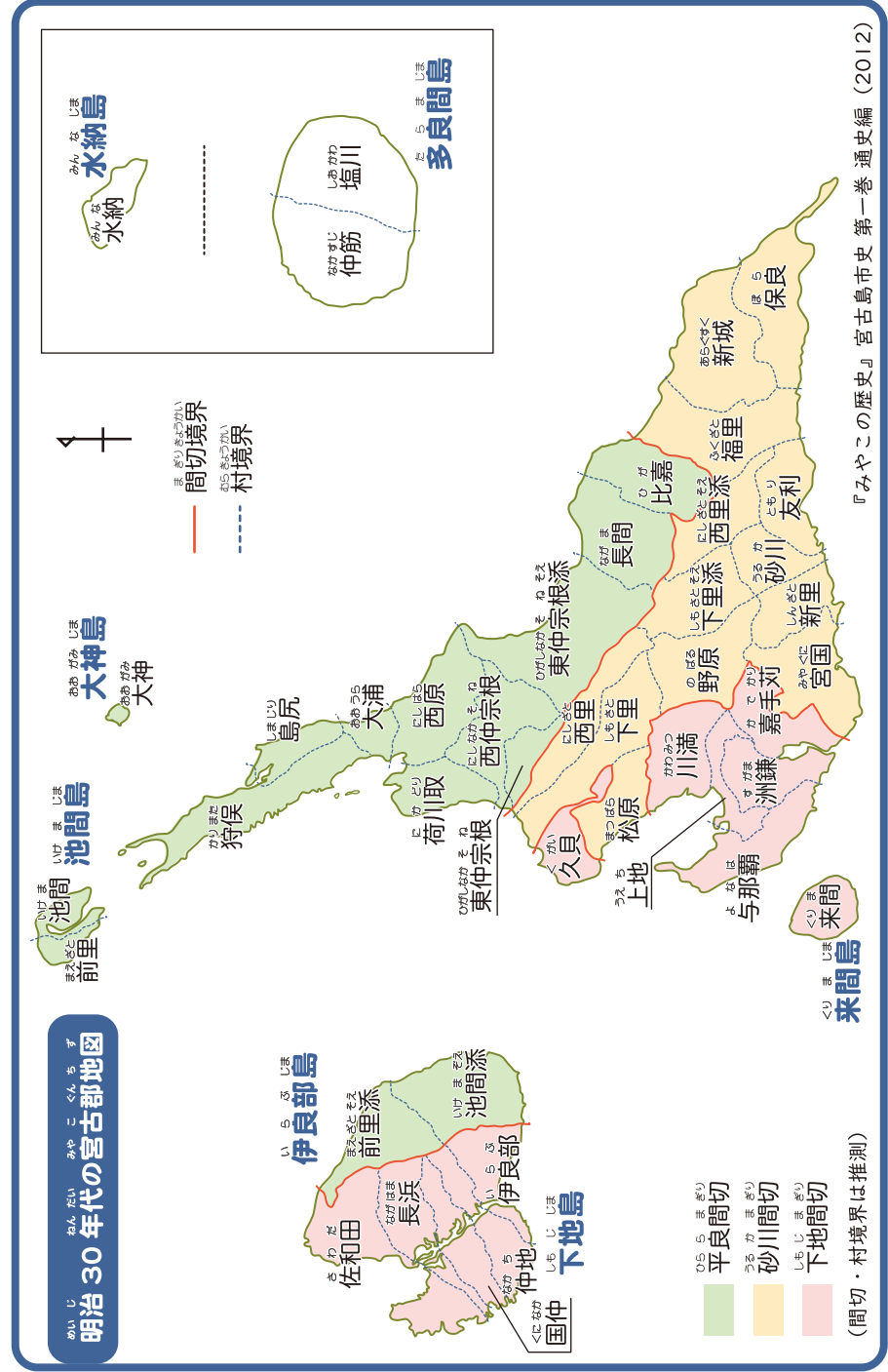
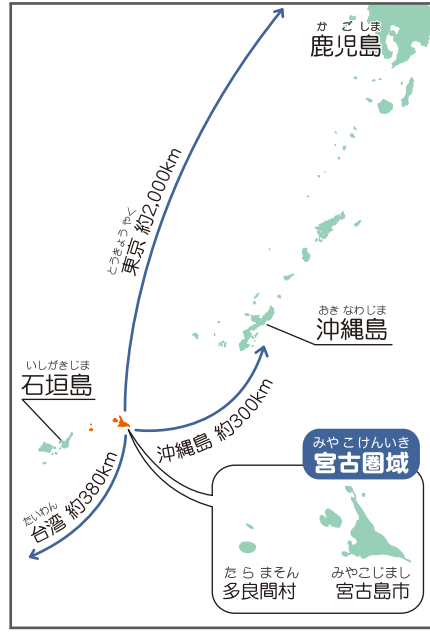
「あやんつ」とは、宮古のことばで
「趣のある道」という意味です。

みやこしまし いちめんせき
宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204平方キロメートル、人口約5万6,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



『みやこの歴史』宮古島市史第一巻 通史編 (2012)

(間切・村境界は推測)



綾道

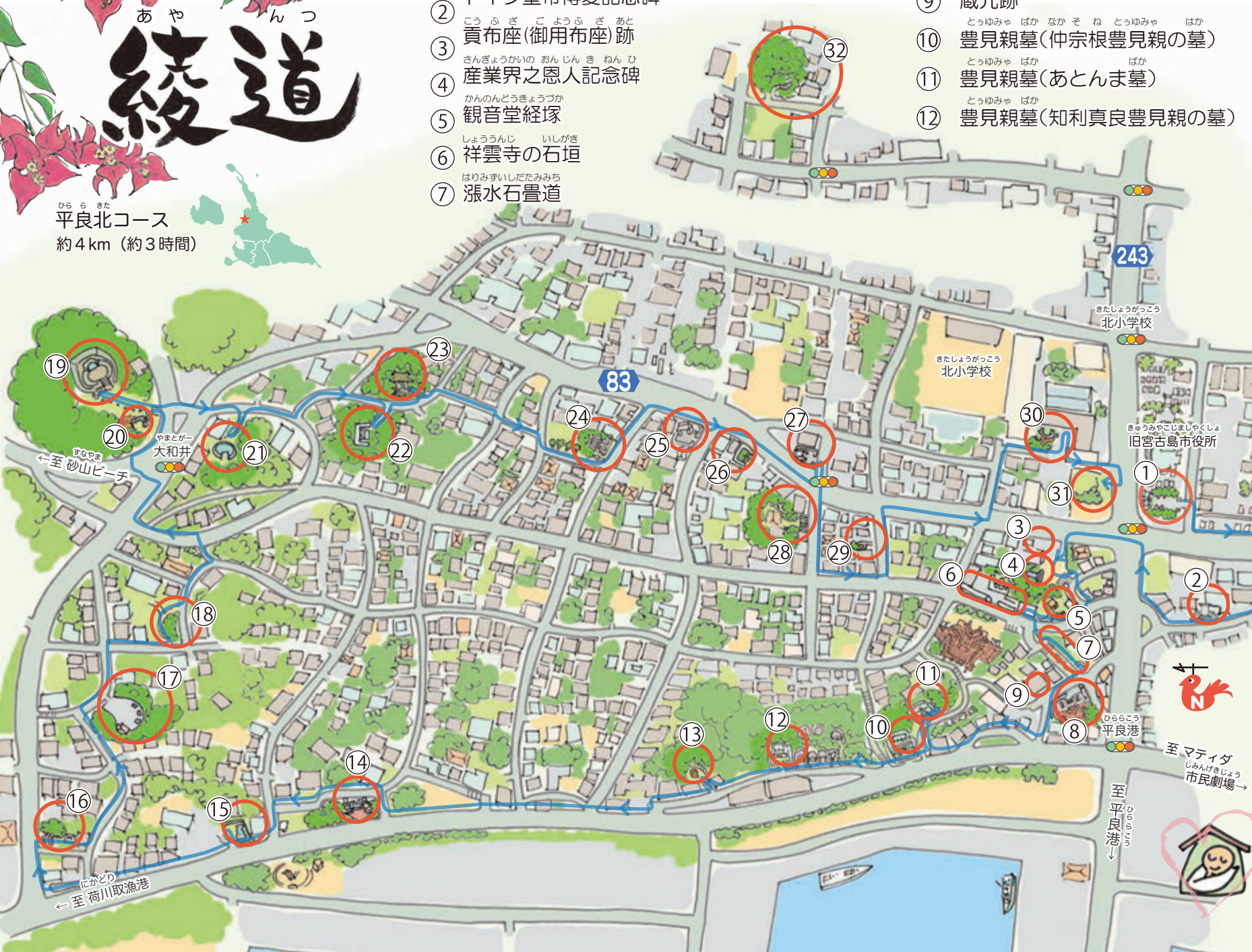
平良北コース
約4 km (約3時間)



- ① 住屋御嶽 すみやうたき
- ② ドイツ皇帝博愛記念碑 こうていはくあいきねんひ
- ③ 貢布座(御用布座)跡 こうふざごようふざあと
- ④ 産業界之恩人記念碑 さんぎょうかいのおんじんきねんひ
- ⑤ 観音堂経塚 かんのんどうきょうづか
- ⑥ 祥雲寺の石垣 しょううんじいしがき
- ⑦ 漲水石畳道 はりみずいしだみみち

- ⑧ 漲水御嶽と石垣 はりみずうたきいしがき
- ⑨ 蔵元跡 くらもとあと
- ⑩ 豊見親墓(仲宗根豊見親の墓) とうゆみやばかなかそねとうゆみやばか
- ⑪ 豊見親墓(あとんま墓) とうゆみやばか
- ⑫ 豊見親墓(知利真良豊見親の墓) とうゆみやばか

- ⑬ おんがーさとぬしパーちゃん 恩河里之子親雲上の墓碑 おんがーさとぬしパーちゃん
- ⑭ 真玉御嶽 またまうたき
- ⑮ 人頭税石 にんとうせいせき
- ⑯ 湧川まさりや御嶽 はくがー
- ⑰ ウプムイ御嶽 うぷむい
- ⑱ カーニ里御嶽 かとうたき
- ⑲ 大和井 やまとがー
- ⑳ ブトゥラ井 ぶとらがー
- ㉑ 大川 うぶがー
- ㉒ 保里御嶽 ひさていうたき
- ㉓ 芋又主御嶽 んいぬしゅ
- ㉔ 船立御嶽 ふなだていうたき
- ㉕ ユーラジ御嶽 うたき
- ㉖ 仲屋金盛ミャーカ なかやかなもり
- ㉗ 外間御嶽 ぶかまうたき
- ㉘ 旧仲宗根氏庭園 きゅうなかそねしーていえん
- ㉙ 仲屋まぶなり御嶽 なかや
- ㉚ 尻間御嶽 しーまうたき
- ㉛ 住屋遺跡 すみやいせき
- ㉜ 盛加ガー(洞井) むいか どうせん



散策コースは住宅街の中や
民家に隣接しています。
お互いが気持ち良く
過ごせますよう、
ご配慮をお願い致します。

綾道 (平良北コース)



宮古島の位置と面積.....02

明治30年代の宮古郡地図.....03

散策map.....04

住屋御嶽 拝所.....08

住屋御嶽の伝説.....09

ドイツ皇帝博愛記念碑 県指定史跡.....10

エドワルド・ヘルンツハイム船長の航海日記.....11

貢布座(御用布座)跡 史跡.....12

産業界之恩人記念碑 市指定有形文化財(典籍).....13

観音堂経塚 市指定史跡.....14

祥雲寺の石垣 市指定史跡.....15

祥雲寺の石垣保存修理工事.....16

漲水石畳道 市指定史跡.....17

漲水御嶽と石垣 市指定史跡.....18

宮古創世神話と人蛇婚説話.....19

蔵元跡 史跡.....20

蔵元・村番所の構図.....21

豊見親墓(仲宗根豊見親の墓) 国指定重要文化財(建造物)・県指定史跡.....22

ミャーカと横穴式墓地.....23

豊見親墓(知利真良豊見親の墓) 国指定重要文化財(建造物).....24

豊見親墓(あとま墓) 国指定重要文化財(建造物).....25

恩河里之子親雲上の墓碑 市指定有形文化財(典籍).....26

真玉御嶽 拝所.....27

真玉御嶽の由来.....27

ぶばかり石(人頭税石) 名所.....28

人頭税の歴史.....29

湧川まさりや御嶽 拝所.....30

宮古の竜宮伝説.....31

ウブムイ御嶽 拝所.....32

カーニ御嶽 拝所.....33

大和井(大和井・ブトゥラ井・大川) 国指定史跡.....34

保里御嶽 拝所.....36

保里天太と2人の息子.....37

ふち歴史比較年表.....37

芋ヌ主御嶽 拝所.....38

琉球王国の身分制度.....39

船立御嶽 拝所.....40

船立御嶽の由来.....40

ユーラジ御嶽 拝所.....41

玉城普門好善の話.....41

仲屋金盛ミャーカ 市指定史跡.....42

野原岳の変.....43

外間御嶽 拝所.....44

コネイリ祭.....44

旧仲宗根氏庭園 国登録記念物(名勝地関係).....45

仲屋まぶなり御嶽 拝所.....46

尻間御嶽 拝所.....47

尻間御嶽の由来.....47

住屋遺跡 市指定史跡.....48

宮古の英雄系統図.....49

盛加ガー(洞井) 市指定史跡.....50

「降り井」はどうやってできたの?.....51

文化財の体系図.....52

それぞれの文化財の一例.....53

すみやうたぎ
住屋御嶽



参道の奥にふたつの祠と二つのイビ(香炉)が配置され、左側の祠が本来のもので「根入りや下りあらうふむ真主^①」が祀られています。右側の祠とイビは、この御嶽から15mほど南東の「ニーマムトウ^②」が移転したものです。祠の中は御神体として自然石が置かれています。また、拝所手前の左側にあるイビは「フナイウプツカサ^③」という御嶽を遥拝(遠くから参拝すること)しています。住屋御嶽は「根間の里御嶽」として、また学問の神様として参拝されています。

すみやうたぎでんせつ
住屋御嶽の伝説

昔、根間というところに7才の男の子がいました。母親が早くに亡くなったので、継母が育てていましたが、この継母がとても心根の悪い人で、この子がいなくなればいいと思っていました。

ある日、赤豆を煮ていると、男の子がそれを食べたいと欲しがるので、継母は「ビュウガッサ(クワズイモ)の葉で包んであげるから、住屋のアブ(洞窟)のそばに生えているのを取っておいで」と言いました。男の子は喜んで取りに行きますが、足を滑らせてアブに落ちてしまいます。運良く途中で生えていた蔓に引っかかり、助けを求めて7日7晩泣き通しました。その泣き声は父親にも聞こえていましたが、なんと父親も大変心根の悪い人で、男の子の泣き声がうるさいと、蔓を切ってしまう、男の子は奈落の底へ落ちてしました。

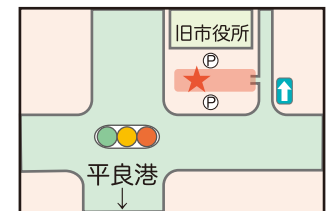
そのアブの底は、「根入りやあらうの国」という、死んだ人がいく国でした。男の子から事情を聞

いた根入りやの神様は、男の子の行動を見て、とても心の正しい子だと分かり、元の世界へ帰してやりました。

元の世界へ戻った男の子は、住屋山へ行き、人々から「根入りや下りあらう踏む真主」と呼ばれる神様になったと伝えられています。また、この言い伝えから、この神様は父の行いをとても悲しみ、全ての男を呪うようになったので、男が参拝してはならないといわれています。そのため、祭祀のお供え物は男子には与えないといわれています。



クワズイモ：サトイモに似ているが食べられない。白い汁はかぶれることもあるので注意。



ドイツ皇帝博愛記念碑



1873(明治6)年、台風に遭遇して宮古島の南海岸に座礁難破したドイツの商船ロベルトソン号を、宮古島の人々が手厚く介抱し、船を与えて帰国させました。このことを知ったドイツ皇帝ウイヘルムⅠ世は宮古島の人々の勇気と博愛の精神を讃え、1876(明治9)年、軍艦チクロープ号を宮古島に派遣して記念碑を建立させました。1936(昭和11)年には、建碑60周年記念式典が催され、宮国のンナト浜に「独逸商船遭難之地」と記された石碑が建立されました。

エドワード・ヘルツハイム船長の航海日記

タイピンサン(宮古島)の人々の行動は勇気と博愛の精神に満ちていた。私は感謝と敬愛の念を込めて37日間に及ぶタイピンサンのできごとを語りたい。この島には博愛の人々がいる。

1873年7月9日
台風に遭遇した。懸命の避難作業を行ったが、行方不明者2名、私を含めた大半の乗員が怪我をした。船もマストと舵を失い、漂流を余儀なくされている。

7月12日
丸一日漂流し、昨日座礁した。救命ボートで脱出を図るが挫折。絶望の夜、私は灯りと人影を見た。朝になり、潮の満ちるのを待って島人のカヌーが近づいて来た。浜には医師も待機し、手厚く保護された。私たちは助かった。

7月21日
10日が経った。親切な対応に心も落ち着き、怪我也徐々に良くなっている。言葉も少しは通じるようになった。暇に任せて机とイスを作った。島人は床で食事をするが、私たちは座って食べたい。

7月24日
船の捜索も終わり、幾つかの積み荷が残ったが、ほとんどが役に立たない。森で山鳩を見つけた。鉄砲を修理して猟に出る。お目付役の島人は迷惑そうだったが、黙認してくれる。6羽しとめ

た。素晴らしい夕食が待っている。
8月2日
3人の役人が来て、もうすぐ大きな船が来る。その船に乗って沖縄島に行くか、私たちが操船して中国に向かうか、決めて欲しいと。私たちは中国に向かうことにした。早速操船練習を始める。

8月10日
数日前、私は落馬で怪我をした。一日も早く出航したいが、怪我が治らないと許可が下りない。これも島人の親切心なのだろう。彼らと海岸に出かけ、記念に大きなヤシの木に名前を刻んだ。

8月17日
いよいよ出航の日が来た。船は私たちの注文に応じて改造された。昨夜遅くまで別れを惜しんだ人々が手を振る中、大海へ乗り出す。さようなら、タイピンサン。さようなら、博愛の人々。

1876年7月22日
帰国後、この事件をドイツ帝国に報告した。島人の勇気ある行動、気高く私心なき博愛の精神が永遠に語り継がれることを、私は望んでいる。



こう ぶ ざ ご よう ぶ ざ あと
貢布座 (御用布座) 跡



しょうらん じうら りんせつ ぼしよ きんせい きんだいぜんき
祥雲寺裏に隣接するこの場所には、近世から近代前期まで
じょうのう ぶ かん ぎょうむ と おこな くらもとはい か こう ぶ ざ ご よう
上納布に関する業務を執り行っていた蔵元配下の貢布座(御用
ぶ ざ じだい りゅうぎゅうおう ぶ あわ たん
布座)がありました。近世時代、琉球王府は宮古島から粟と反
ぬの ぜい ちょうしゅう かくむら お
布を税として徴収していました。各村で織られた反布は、織
おわ ぼんしよ ぼかん
り終わると村番所に保管し、
のうにゅう
蔵元に納入しました。



さん ぎょう かい の おん じん き ねん ひ
産業界之恩人記念碑



たいしょう
1925(大正14)年7
月に、宮古神社が西里
みや こ じん じゃ にし ざと
1番地に創設された
ばん ち そう せつ
際、同境内に建てられ
さい どう けい だい た
ました。

おもて さんぎょう かい の おん
表には「産業界之恩
じん しも じ べーちん けい こん うる
人・下地親雲上恵根、砂
か べーちん し おく いなし と
川親雲上旨屋、稲石刀
じ き ねん ひ も じ しる
自・記念碑」の文字が記
され、三者を産業界の恩
さんしゃ
人として讃えています。
たた

じゆん ち まつ なえすう ほん も
下地親雲上恵根は、1655(順治12)年に、松の苗数本を持ち
かえ ししよく とう き
帰って試植し、1681(康熙20)年には2,000本の松の苗を植
え、造林のきっかけを作りました。砂川親雲上旨屋は1597
ぞうりん つく
(万暦25)年に中国から芋かづらを持ち帰り、栽培普及に努め
ばんれき ちゆうごく いも さいばい ぶ きゅう つと
ました。稲石は1583(万暦11)年、
あやさび ぶ だ りゅうぎゅうこくおう けんじょう
綾錆布を作り出して琉球国王に献上
しました。これが宮古上布の元になり
じょう ぶ もと
ました。



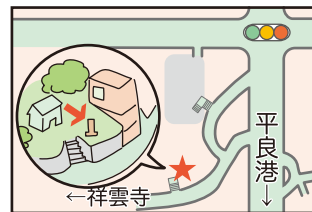
観音堂経塚



1699(康熙38)年に建てられた観音堂は、税を納める船の往來の安全祈願所として崇敬を集めたと伝えられます。

観音堂の前庭にある経塚は、宮古に仏教が伝わったことを示す数少ない

遺跡のひとつで、表に「経呪嶺」、裏に「雍正丙辰冬白川氏恵道建焉」と記されています。経塚とは、経典や経文を書き写したものを塔の中または下に埋めた塚や碑をさします。この経塚の下には「金剛経」の経文を墨で書いた小石が埋められているといわれています。経塚が建てられた雍正丙辰は、1731(雍正9)年で、白川氏恵道は同年から1737(乾隆2)年まで平良の頭職をつとめており、この経塚は恵道が在任中に建立したものです。



祥雲寺の石垣



祥雲寺は薩摩藩が王府に申し立てたことで、1611(万暦39)年に山月和尚によって開山(仏寺を初めて開くこと)されました。1743~45(乾隆8~10)年に琉球王国の正史として編纂された史書『球陽(1743)』には、1696(康熙35)年の大地震の際、寺の石垣が崩れたことを記しており、この頃にはすでに祥雲寺の石垣があったことを示しています。18世紀初頭、宮古では全域にわたって大規模な土木工事が進められており、祥雲寺の石垣もこの時、改めて築かれたと考えられます。

戦災や都市計画などで街なみが大きく変わり、石垣が消滅しつつある今、当時の石造文化を知る上からも、重要な建造物です。



はりみず いし だたみ みち
漲水石畳道



18世紀初め、宮古の治山・土木工事が精力的に進められていた頃、各村の道路幅は2間半(4.5m)に拡張、改修、新設されたと伝えられています。1696(康熙35)年の大地震後、石畳道も2間半に拡張され、治山事業で豊富に得られた石を敷きつめたものと考えられています。廃藩置県後もほぼ完全に残っていましたが、1921(大正10)年の漲水港築港、1942(昭和17)年の宮古神社移転にともなう工事、第二次世界大戦、戦後の道路拡張工事などで損傷し、現在は約3分の1を残すのみとなっています。



しょううんじ いし がき ぼ ぞん しゅうり こうじ
祥雲寺の石垣保存修理工事

祥雲寺の石垣は、過去に大型車両が追突して崩れたことがあり、また石垣の内部に根をはった樹木が原因で、石が抜け落ちたり、外側にふくらんでいました。そのため、平成25年度の宮古島市neo歴史文化ロード整備事業で、この石垣を復元する石造文化財保存修理工事を実施しました。

げんきょうそくりょうさんじげんしゃしんけいそく
①現況測量(三次元写真計測)

工事前に一般の現地測量に加え、写真計測を行う。

ばんごうつけ
②番号付け



一番下の基礎になる石(根石)が歪んでいると再び崩落を起こすため、石積み一度全て解体する。その後、再び石を元の位置に正確に戻すため、大小全ての石に番号を貼り付けていく。

しゅうりご
⑤修理後測量(三次元写真計測)

修理完了後、再度写真計測を行い、修理の前後を記録する。修理によって動いた石や補填した石など確認することができ、次回の修理を行う際の基礎資料になる。



③解体

解体しながら石垣の中に詰められた石(裏込)などの材質の記録や、石垣が崩れた原因調査などを行う。

しゅうふく
④修復



解体時の記録や測量をもとに積み直す。なるべく元の石材を再利用するが、欠損している箇所は同じ材質の石(祥雲寺は琉球石灰岩)で補填する。